

# 日光道中とは

日光道中は、江戸時代に整備された五街道のひとつで、日光街道とも呼ばれています。江戸日本橋を起点とし日光坊中(日光東照宮)まで達し、総延長は三十六里三町二間(約142km)に及びます。

日光道中は、日本橋から宇都宮宿まで奥州道中との共用区間であったため、東北方面の大名の参勤交代や、日光社参(徳川将軍の日光参拝)の道として用いられたほか、庶民にも多く利用されていました。

日光道中には二十一の宿場が設けられ、人馬の継立、助郷差配等の業務を行う問屋場、大名が宿泊・休憩をした本陣、本陣などが置かれたほか、旅籠、木賃茶屋や商店が建ち並び町場を形成し、賑わいをみせていました。



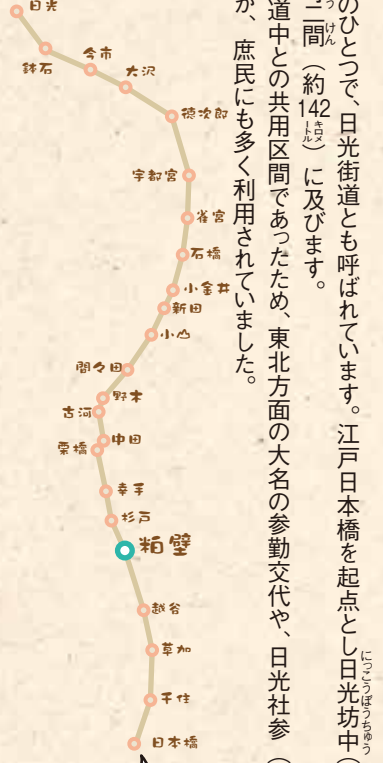
# 粕壁宿の歴史

粕壁宿は、江戸日本橋から千住、草加、越谷(越ヶ谷町と大沢町)に続く日光道中四番目の宿場町でした。

江戸からの距離は九里町(約35.6km)、宿場内の通りの長さは二十四町三十五間(約27.5km)、道幅四間(約7.3m)でした。町並みは現在の春日部大通りにあたり、通りに沿って南北十町二十五間(約11.5km)にわたり、天保十四年(一八四三)ころには家数七百七十三軒、人口三千七百二人を数えました。

宿場は、公用の出張者が利用する馬や人足を、乗り継いで交代するための場所として、諸街道に設けられた町です。また、大名や日光門主が利用できる宿泊施設が整っており、公的な書類の飛脚業務も行っていました。粕壁宿には人馬の手配などを行う問屋場が一ヶ所あり、宿泊施設である本陣と脇本陣が各一ヶ所ありました。一般旅客も泊まることのできる旅籠は四十五軒でした。

粕壁宿から日光・奥州方面へ向かうと、杉戸・幸手・栗橋と宿場町が続き、房川渡中田関所(栗橋関所)を通じて利根川を渡り、対岸の中田宿(現茨城県古河市)へ渡ります。



日光道中 粕壁  
(埼玉県立歴史と民俗の博物館所蔵)

日光街道・日光西街道では  
御宿場印めぐりも開催中!



埼玉県心のまち  
創造委員会  
埼玉県のマスコット「ヨコくん」



一般社団法人 春日部市観光協会  
www.visit-kasukabe.jp

発行／春日部市  
編集／一般社団法人 春日部市観光協会  
TEL.048-812-5304  
春日部情報発信館「ぶらっとかすかべ」  
TEL.048-752-9090  
印刷／華陽印刷株式会社

歩いてみよう!

日光道中

粕壁宿

温故知新

春日部市観光協会

防災地下神殿

首都圏外郭放水路「龍Q線」

アーバンパークライン

春日部駅

スカッパリーライン

# 粕壁宿

## 散策マップ

### 日光道中スタンプラリー

粕壁宿内の「ぶらっとかすかべ」と首都圏外郭放水路「龍Q館」に設置してあるスタンプを集めると、「ぶらっとかすかべ」にて特製ポストカードが買えます！

※スタンプラリーは規定数に達し次第終了する場合がございます。

散策コースを

HPにてご紹介！

粕壁宿散策コース



春日部市の東部には世界最大級の  
地下放水路も！→

首都圏外郭放水路

「龍Q館」

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分

【休館日】

毎週月曜日、年末年始

スタンプラリー②

首都圏外郭放水路



春日部重行公の墓

85

十文橋

古隅田川

上喜蔵河岸跡

新町橋

永嶋庄兵衛商店

古利根公園橋

商家の蔵

道しるべ

丸山院

礎神社のイヌグス

中央図書館

国立薬草園跡

市民文化会館

東八幡神社

東八幡神社参道

東陽寺

八坂神社

わいわい春日部パーク

最勝院

見川喜蔵墓及び  
見川家五輪塔

成就院

妙楽院

玉蔵院

←東武動物公園

東武スカイツリーライン

東武アーバンパークライン

春日部駅

東口

学校通り

粕壁小

消防署

粕壁小学校  
郷土資料館

加藤楸邨  
旧居跡

まちなみ公園

ぶらっとかすかべ

プロンス通り

仲町郵便局

公園橋通り

山中観音堂

神明通り

神明神社

- 凡例
- 旧跡
  - 解説板
  - 市文 市指定文化財
  - 国登 国登録文化財